

2003 . 12

# 白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ  
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>  
白石区民公式サイト「shiroishi.org」  
<http://www.shiroishi.org/>

「具合の悪そうな人を見ると、すぐに声を掛けてしまいます。何か手助けできることはないかと思うんです。おせっかいなんですよ」。そう笑うのは扇原登代子さん。平成七年に白石区社会福祉協議会にボランティア登録し、週に四、五日のペースで活動する介護ボランティアだ。

昭和六年、岡山県で男女九人兄弟の末っ子として生まれた。小さなころから明るく活発な性格で、友人もすぐにできたという。十四歳の時、兄の紹介で札幌鉄道病院看護婦養成所に入所。その後六十三歳まで看護婦として働き続けた。「看護を学ぶうちに『誰かの役に立ちたい。困っている人を手助けしたい』という感情が芽生えたんです」という彼女。その思いが、今のボランティア活動の原動力となっている。

現在は主に、地域に住むお年寄りや障がいのある人の自宅を訪問し、掃除・洗濯などの家事や、車いすを押したり体を支えたりする外出介助などを行っている。福祉施設で入所者の食事や外出のサポートを行うのも活動の一つだ。時には話し相手として、不安や悩みを耳を傾けることもあるという。また、最近では趣味で始めた折り紙も活動の中に生かされている。出来上がったものを訪問先でプレゼントするのだ。受け取る人の喜び

今月の

人

扇原登代子さん (七十二)

おおきほらとよこ

(平和通在住)

活動を通して多くの人に出会い、喜びや悲しみを分かち合えることが元気の秘けつです。

顔を思い浮かべながら折るのが楽しいのだという。

「ボランティアにはこまめと線引きが難しい。良かれと思っただけがかえって迷惑につながることもある」とボランティアの難しさを語る扇原さん。ささいな誤解から、訪問先で怒鳴られたこともあったが、「ボランティアをやめようと思ったことは一度もない」と言い切る。「活動を通して多くの人に出会い、話をしたり、喜びや悲しみを分かち合ったりできることが私の元気の秘けつであり、生きがいです」。そう話す彼女は、年齢を感じさせないほど生き生きとしていた。

編集 白石区役所総務企画課広聴係  
☎003-8612  
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1  
☎861-2400 内線224  
FAX860-5236